

# SQUARE DANCE

初めてシリーズ①

## 初めてのクラブ運営

### Japan Square Dance Association

一般社団法人日本スクエアダンス協会

人材育成委員会

「初めてシリーズ」は、スクエアダンスを始めてまもない方々が、より充実したダンス活動ができるよう、スクエアダンスの楽しみ方や、クラブ運営の基本をまとめたものです。

皆で楽しむクラブの運営のあり方や、仲間の増やし方、クラブのアニバーサリーの開催の仕方、仲間の情報交換・記録のための会報作り、パーティーでのマナーや、初めて着るコスチュームのことなど、活動にあたって知っておいていただいた方が良いことを、初めて経験する方にも解りやすくまとめています。

どうぞ、皆さまのクラブでご活用いただき、これからのスクエアダンス活動にお役立て頂ければ幸いです。

# 初めてのクラブ運営

新しくクラブを立ち上げた時、具体的にどのようにクラブ運営したら良いかわからないことばかりです。本文では新しいクラブを運営する基本的な手順や前以て検討すべき課題等を拾い挙げて記述したものです。また、既存クラブの活性化は初心に帰ったクラブ運営とも言われています。既存クラブのこれからの運営に際しても本文からは参考になる多くのヒントを見つけることができるのではないのでしょうか。

## 目 次

1. 基本構想
2. 広報活動
3. 役割分担
4. 新しいクラブの運営
5. 情報の共有
6. 例会プログラム
7. レベルアップの問題
8. 達成感の共有
9. 将来への継続

終わりに

## 1. 基本構想

新しいクラブをこれからどのようなクラブにしていくのかの考え方で、その後のクラブ運営の方法が違って来ます。クラブの規模はどの程度を目指すのか、ダンスプログラムはどこまでを対象にするのか。会員の年齢層はどの範囲とするのか。PLUS や RD はどうするのか。基本構想によって例会場の広さや例会開催日・時間等が自ずと決まってくる。そしてこの例会場の規模や開催日時で将来のクラブの規模も決まって来てしまうのです。

## 2. 広報活動

とにかく初めのうちは出来るだけたくさんの人を集めることが必要です。その為には広報活動は出来ることは全てやってみるぐらいのパワーが必要です。例えば開催する地域を対象に1日スクエアダンス教室を何回かやってみるとか、地域の新聞やタウン情報紙に写真入りのニュースリリースを送付して記事掲載をして貰うのも効果が大きいでしょう。同一地域の広報活動による人の集まり具合はとにかく初回の効果が大きいのでここに工夫が肝要です。初めのうちはこの広報活動に最大の精力を注ぐべきです。この広報活動も時間をずらしてある期間は何回か連続してやってみることも大切です。

会員の増強の中でとくに大切なのは男性会員の増強と夫婦会員の増強です。これも自然増を期待してもダメです。会員を啓発してクラブを挙げての取り組みをしなければ増強は期待できません。とにかく手を変え品を変え会員に対して啓発して行くことと、そしてとにかく増強策を実行してやることです。大切なのはこれらのターゲットに対して具体的な勧誘方法を会全体で考えることなのです。まず、会全体が男性会員を増強させようと言う気運を作り上げることから始まります。紹介で来られた方の定着率はかなり良いようです。また、地元の参加者の定着率は高いと言えます。定着率に関しては恐らく地域性があると思いますので常に分析をして次回のビギナークラスへ反映することが望ましいと思います。

### 3. 役割の分担

クラブの規模の大小に拘わらず、サークル活動の基本に則り組織として活動をスタートする事が望ましいと思います。その為には第1期生の卒業後に創立総会を開催することから始まります。総会開催の手順に沿って、全員の参加の下に規約の作成、活動報告と収支決算報告、年間活動計画と予算、会計監査報告、役員を選出と一通りの内容を実施することが必要です。その中で難しいのが役員を選出と役割分担です。どうしても発足当時はクラブの規模もそんなに大きくないのでつい創設者がそれなりにクラブを取りまとめがちであり、また当面はそれで十分にやっています。しかし、それは後々の為には絶対に好ましくありません。やはり、規模の大小に拘わらずここはきちんと組織としての体裁を整えて、組織としての活動に切り替えていくことが必要です。役員の役割としては会長、副会長、会計、総務、広報、スナック、会計監査、指導部等が比較的標準的だと思います。大きなクラブによっては理事制度や班長制度やその他いろいろな制度をとっているところがありますが、それはクラブの規模が大きくなるにつれてそのクラブの実情に合わせて改定していけば良いと思います。出来るだけ一部の役員で物事が決まって行くシステムより多くの会員の意見が吸い上げられる組織が望ましいと思います。また、役員を選出時に是非皆さんに述べておいた方が良いでしょう。4点あります。1つ目は、まず自分が役員をやりたいからと言う考えで他の人を選ばないこと。2つ目は、この人ならクラブ運営をまかせられると言う観点で選ぶこと。3つ目は、選ばれた人は皆さんの期待に応えるように努めること。そして、4つ目は選んだ以上は全面的に協力を惜しまないことです。

次に、規約ですが、現状のクラブでも規約があるクラブとないクラブがあるようですが、ないクラブについてはよく話しを聞くと規約に準ずるクラブの決め事はあるようです。出来ればこれからクラブを新設する際には初めから成文化した規約を作られた方が良いでしょう。規約はクラブの最も尊重すべき決め事ですから、規約があることによってクラブ運営が民主的に行うことが出来ます。ある程度時間が経過してからですとなかなか規約を新たに作ることも難しくなって来るものです。規約はやはり、創設時に作るべきだと思います。規約の作成に当たっては幾つかのクラブの規約を参考に

して作ると良いでしょう。そして、創設者は規約の原案作成時に創設の精神と基本理念を盛り込むことが重要です。

#### 4. 新しいクラブの運営

クラブ運営に当たってはまずリーダーの心得が大切です。これがなければクラブは作ることが出来てもこれを存続させて行くことは難しいでしょう。そこで、リーダーの心得を幾つか紹介したいと思います。

##### ①ひとり(少数)ですべてをしないこと

リーダーになり手がいないのはなぜか？それは、クラブや組織の運営をすべてひとり(少数)でやってしまっているからです。これではなり手が出ないのは当然です。中心人物だけが走りまわらずに、役割をみんなで分担して実行するようにクセづけましょう。他にやらせた時に意に沿わぬ事があっても60点で満足することが大切です。

##### ②いつまでもリーダーでいないこと

特に、オーナー的リーダーはクラブの成熟期にはいなくてもよいようにすることが大切です。つまり、しょせんリーダーとは消えていく運命にあること知らなくてはなりません。

##### ③後継者をつくること

現在のリーダーはこれと思う人がいたらリーダーの教育をすることです。機会ある毎にリーダーの仕事を代行させ本人に体験させ自信をつけさせましょう。単に代行させるだけではなく正式に分担させ回りに次期リーダーとして認めさせることがたいせつです。新しいリーダーが誕生したら「小姑意識」をもたないこと。

##### ④一人一役の運営をすること。

リーダーでないメンバー全員に何らかの役割を付け集団運営を工夫することです。また、各係りを1人にしないことです。代表者、会長も1つの係りとわりきっても良いのです。「代表係り」と呼んだ言葉の響きは大きく異なるものであることに気が付きます。

##### ⑤私塾化しないこと。

クラブはクラブを構成する会員が主人公なのです。リーダーは

その人達の中で選ばれたマネージャーなのです。いうなればリーダーは会員の意を汲んでマネジメントをするだけの人なのです。

⑥ 新人を受け入れること

古い会員が新しい会員を指導するようなプログラムをやることです。新人には、その人ができる仕事を分担させ、自然にクラブに慣れさせることです。

⑦ しっかりキマリを作り、守ること

もし規約がなければミスが発生しても防止のしようがありません。会計がはっきりしなくても明朗化する手がかりがありません。

本物のリーダーとはだれがリーダーをしてもクラブ運営がうまく行く様に自分がリーダーの時にその仕組みをきちんと仕込む事が最大の任務なのであり、単に日々のクラブ運営に奔走するものではないのです。

(参考文献 岡本包治：公民館利用グループの運営 昭和 59 年 4 月)

## 5. 情報の共有

クラブ運営に際しては会員同士の情報の共有は極めて重要な役割を果たします。情報の共有ツールとしては「会報」、「クラブニュース」、「例会案内」、「議事録」、「例会ミーティング」、「記念誌」等があります。たしかにこれらのツールを定期的に作成には大変な苦勞が伴います。そして、これをクラブ員の手で作成することが大切です。ミーティングの場を単にパーティー案内の場だけではなく、役員会で決定事項の伝達や、県連での理事会の報告、支部活動の動向などをいつも折りにふれ会員に話しておくことが大切です。常に情報が伝えられていなければ会員も協力のしようがありません。限られた一部の人達で物事を決めるのではなくクラブ員が合意した形で物事を決めて行くことが大切です。

## 6. 例会プログラム

ベーシックも修得し、MSも踊り込んでくると会員の中から PLUS や RD に対する要求が必ず出てきます。会員のレベルが一定であれば問題はあまりありませんが、とくに一部の活動を活発にしている人から声が出てくるものです。ですから、その時にどうすべきかを考えるのではなく、基本構想の段階で当クラブにおける PLUS や RD の位置付けを明確に持つておくことです。ある程度クラブ員に相談できる状態であればよいのですが、まだ発足当時はクラブ員にもよく分からない人が多い中で話題をだしても結論をだすのは難しいでしょう。ですから、本来はそのような声が出る前に前以て PLUS や RD の現状を説明しておき、当面は当クラブはこのような位置付けで行きたい旨を役員会で諮っておく必要があります。PLUS や RD の位置付けは新しいクラブであるなしに拘わらずクラブ内できちんと合意しておくべき課題の1つです。

例会プログラクにも常に工夫が必要です。クラブも古くなって来るとただ何と無くとくに例会プログラムもなしに進行されているクラブもあるようですが、これは例会がマンネリ化するものになるので注意が必要です。例会プログラムの基本案は指導部が作成して役員会で検討していくと良いでしょう。そしてこの基本案も時折見直すことが必要です。日々の例会はその基本案に沿って指導部が具体的なプログラムを決めて進行していきます。

ビギナーへの3原則は①教えすぎない事②完璧を求めない事③楽しさを教える事です。この3原則は講師のコーラーに徹底すべき重要な原則です。

## 7. レベルアップの問題

会員のレベルアップばかりに趣を置きすぎてビギナーの育成を蔑ろにしてしまうことは将来の継続の上で危険なことで避けるべきことと思います。ビギナーの育成はクラブの活性化と次世代のリーダーの育成の上からも最も重要なことなのです。例会活動の半分はビギナー育成にあり、その中で例会の楽しさを作り出すことの工夫は常に必要です。レベルアップとビギナーの育成のバランスこそが例

会運営のカギとなります。また、クラブも発足してある程度時間が経過するとクラブ内にそろそろレベル差が生まれて来ます。これをそのまま見過ごすことは出来ません。レベル差への対応もクラブ継続の重要なカギの1つです。これに対する対応方策は現在各クラブでそれぞれ創意工夫されているようです。いずれにしても後手にならないようにレベル差への対応は怠ってはいけません。出来るだけ会員が同じレベルで楽しめるクラブ作りを目指さなくてはなりません。それが大変に難しいことです。

## 8. 達成感の共有

いかなる行事でも欠かせない重要な三つの共有があります。一つ目の共有は「目的の共有」です。その行事をやる目的は何か、その目的をすべての会員が共有することがまず大切な一つ目の共有です。二つ目の共有は「プロセスの共有」です。一部の会員だけが汗を流すのではなく全員が一丸となって準備に取り組むことが必要です。そして、三つ目の共有は「達成感の共有」です。その行事がみんなの協力で成し遂げた時に「達成感の共有」が生まれます。その達成感の共有こそがクラブ活性化の根源となります。

## 9. 将来への継続

新しいクラブを作ることは簡単です。難しいのはそのクラブを将来へ継続させて行く事なのです。今までの章で述べてきたことの全ては将来への布石なのです。リーダーは先を見て行動を起すことが大切です。リーダーは自分がリーダーの時に次のリーダー、コーラーを育成しておかなければなりません。自然発生を待っていても駄目です。やらせることによって人は成長します。出来そうな素養と意欲のある人にはどんどんとチャンスを与えて経験させて次世代のリーダーやコーラーとして育成しましょう。

役員はクラブのベテラン会員がすると言う悪しき慣例を創設期のころから作らないことが必要です。役員は持ち回りで、出来れば全員が経験しているようなクラブが理想です。1度役員を経験すると役員の苦勞がよく分かります。そして、役員から自分が1会員にな



った時は出来るだけ小姑意識を持たないで出来るだけ前向きに協力して上げることが大切です。また、役員が持ち回りでも出来るようにクラブ運営のやり方は常にドキュメントの形に残しておいて次の役員に引き継いで行くのが良い方法です。クラブ運営の具体的な方法が1部のベテラン役員のノウハウとしてあるだけでは引き継ぎようもありません。大切なことはリーダー1人や一部の役員だけで対応しないでクラブ員全員参加の基のクラブ運営を心がけることです。それには何よりも常にクラブ員に対する教宣が重要です。けして面倒くさがらず会報、例会案内、役員会、ミーティング、掲示物、配布資料・・・等、を通じて何度も何度も啓発を繰り返すことが重要です。「クラブを皆の力で大切に育てたい」と言う共通の認識の基にクラブ員全員が多少面倒なことでも楽しい例会作りの為にはやっ行ってこうと言う気構えを作り出すことです。

## 終わりに

新しくクラブを作って運営することは本当に苦勞が多いものです。しかし、その苦勞を差し引いても喜びが多くあります。本文が新しいクラブ運営に対して何等かの参考になれば幸です。また、本文が既存クラブの運営に際しても初心に帰ったクラブ運営と言う面で参考になれば幸です。



編集：一般社団法人日本スクエアダンス協会  
人材育成委員会

委員長 中村 禮子

委員 井上 忠志

委員 武田 好史

委員 関口 正夫

委員 岩原 富雄

委員 若松 眞紀子

発行：一般社団法人日本スクエアダンス協会

2012年3月 初版発行

2022年3月 PDF版発行（一部改訂）